

2022年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年7月15日

| | | | |
|------------------|-----------------|-----------|---|
| 上場会社名 | and factory株式会社 | 上場取引所 | 東 |
| コード番号 | 7035 | URL | https://andfactory.co.jp/ |
| 代表者（役職名） | 代表取締役社長 | （氏名） | 青木 倫治 |
| 問合せ先責任者（役職名） | 取締役 | （氏名） | 蓮見 朋樹 |
| 四半期報告書提出予定日 | 2022年7月15日 | 配当支払開始予定日 | — |
| 四半期決算補足説明資料作成の有無 | ： 有 | | |
| 四半期決算説明会開催の有無 | ： 無 | | |

（百万円未満切捨て）

1. 2022年8月期第3四半期の業績（2021年9月1日～2022年5月31日）

（1）経営成績（累計） （%表示は、対前年同四半期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|---------------|-----------------|------|----------------------------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年8月期第3四半期 | 2,051 | △8.7 | 28 | — | △131 | — | △131 | — |
| 2021年8月期第3四半期 | 2,247 | 1.4 | △136 | — | △247 | — | △268 | — |
| | 1株当たり 四半期純利益 | | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 | | | | | |
| | 円 銭 | | 円 銭 | | | | | |
| 2022年8月期第3四半期 | △13.31 | | — | | | | | |
| 2021年8月期第3四半期 | △27.34 | | — | | | | | |

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

（2）財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|-------|-----|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2022年8月期第3四半期 | 4,914 | 761 | 15.5 |
| 2021年8月期 | 5,376 | 888 | 16.5 |

（参考）自己資本 2022年8月期第3四半期 760百万円 2021年8月期 887百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年8月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 2022年8月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 2022年8月期(予想) | — | — | — | 0.00 | 0.00 |

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年8月期の業績予想（2021年9月1日～2022年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-------|------|------|---|------|---|-------|---|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 2,750 | △9.7 | 40 | — | △178 | — | △178 | — | △18.07 |

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正については、本日（2022年7月15日）公表いたしました「2022年8月期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

| | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 2022年8月期3Q | 9,853,520株 | 2021年8月期 | 9,827,120株 |
| 2022年8月期3Q | 257株 | 2021年8月期 | 257株 |
| 2022年8月期3Q | 9,850,071株 | 2021年8月期3Q | 9,826,863株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|--------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 4 |
| (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 4 |
| 2. 四半期財務諸表及び主な注記 | 5 |
| (1) 四半期貸借対照表 | 5 |
| (2) 四半期損益計算書 | 7 |
| (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 8 |
| (会計方針の変更) | 8 |
| (追加情報) | 8 |
| (セグメント情報等) | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社の主要な事業領域である電子書籍市場については、インプレス総合研究所の「電子書籍ビジネス調査報告書2021」によれば、2020年度の電子書籍市場規模は4,821億円で、前年度の3,750億円から28.6%増加し、そのうち83.0%にあたる4,002億円をコミックが占めております。昨年と同研究所の「電子書籍ビジネス調査報告書2020」では、2020年度の電子書籍市場規模の予測は、4,442億円であったことから、予測を上回る結果となっております。また、2025年度には電子書籍市場は2020年度の約1.4倍の6,747億円に拡大すると予想されています。なお、「電子書籍ビジネス調査報告書2021」より、電子書籍市場の定義を見直し、従来「電子雑誌」と「電子書籍」を合わせて「電子出版」としておりましたが、「電子雑誌」を「電子書籍」に含めております。

当社は、「日常に&を届ける」をミッションとして掲げ、中核事業となるAPP事業において、主に大手出版社と共同開発したスマートフォン向けのマンガアプリの収益拡大に注力してまいりました。

APP事業において、主力事業であるマンガアプリ事業では広告市況の悪化に伴い広告ARPUが低下したことで広告収益が減少しました。エンタメ事業では古い事業が好調に推移しましたが、APP事業全体で売上高は前年同期と比較してやや減少しました。一方、マンガアプリ事業において広告宣伝費を効率的に投下したことにより、営業利益は前年同期並みの着地となりました。

RET事業においては事業構造改革により&AND HOSTELの運営にかかる損益が大幅に改善したこととともに、ターゲットやコンセプトの転換を行ったことで稼働率も上昇傾向にあります。

その他事業においては前事業年度に事業ポートフォリオの見直しの一環として、宿泊領域及び賃貸不動産領域向けサービスを事業譲渡したことにより前年同期比で売上高が減少しましたが、不採算事業の撤退により営業損失は縮小いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は2,051,474千円（前年同期比8.7%減）、営業利益28,168千円（前年同期は営業損失136,238千円）、経常損失131,042千円（前年同期は経常損失247,018千円）、四半期純損失131,090千円（前年同期は四半期純損失268,660千円）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。なお、第1四半期会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、当第3四半期累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいて記載しております。

① APP事業

当第3四半期累計期間において、「マンガUP!」、「マンガPark」、「マンガMee」等既存マンガアプリについては、人気コンテンツの掲載延長や作品追加等によって、サービス提供を開始して以降好調に推移しております。また、2020年4月にリリースした株式会社集英社と共同開発したマンガアプリ「ヤンジャン!」及び2020年5月にリリースした株式会社アムタスと共同開発したマンガアプリ「めちゃコミックの毎日連載マンガアプリ」についても、リリース以降、着実にMAU（注1）が増加しており当社の収益に貢献しております。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響による広告市況全体の悪化等が影響し、広告ARPU（注2）は下降傾向にあり広告収益が減少しました。

この結果、当第3四半期累計期間におけるAPP事業の売上高は1,934,126千円（前年同期比4.6%減）、セグメント利益は344,972千円（前年同期比2.8%減）となりました。

（注）1. Monthly Active Userの略称であり、1ヶ月に一度でもアプリを利用したユーザーの数を指します。

2. Average Revenue Per Userの略称であり、ユーザー一人当たりの収益単価であります。

当社のAPP事業において運営するスマートフォンアプリのうち、「マンガアプリ」の四半期毎の平均MAU数の推移は下表のとおりであります。

(単位：万人)

| 年月 | 平均MAU数 | 年月 | 平均MAU数 |
|-----------|--------|-----------|--------|
| 2017年5月末 | 31 | 2020年2月末 | 720 |
| 2017年8月末 | 65 | 2020年5月末 | 906 |
| 2017年11月末 | 108 | 2020年8月末 | 994 |
| 2018年2月末 | 150 | 2020年11月末 | 1,026 |
| 2018年5月末 | 204 | 2021年2月末 | 1,054 |
| 2018年8月末 | 238 | 2021年5月末 | 1,056 |
| 2018年11月末 | 279 | 2021年8月末 | 1,101 |
| 2019年2月末 | 362 | 2021年11月末 | 1,046 |
| 2019年5月末 | 430 | 2022年2月末 | 1,044 |
| 2019年8月末 | 532 | 2022年5月末 | 1,121 |
| 2019年11月末 | 641 | | |

(注) 上記の平均MAU数は、各四半期における平均値を記載しております。

② RET事業

当第3四半期累計期間において、当社が運営する宿泊施設である「&AND HOSTEL」では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた前事業年度に比べ、一部店舗においてターゲットやコンセプトの転換を図り、新規顧客層の獲得を推進した結果、稼働率は回復基調となりました。一方、顧客単価は回復基調にはあるものの依然低い水準にあり、各店舗の運営収益は前年同期と比較して横ばいで推移しました。また、前事業年度において一部店舗における契約見直しを実施した結果、赤字店舗の賃料等の固定費が削減され前年同期と比較して赤字幅は縮小いたしました。

一方、不動産関連売上は不動産賃貸収入が継続して発生していることと、物件売買仲介手数料及び賃貸物件のコンサルティング事業である「&RESIDENCE」におけるコンサルティング収入がスポットで発生いたしました。

この結果、当第3四半期累計期間におけるRET事業の売上高は111,712千円（前年同期比0.3%増）、セグメント損失は36,477千円（前年同期はセグメント損失129,848千円）となりました。

③ その他事業

前事業年度までIoT事業セグメントに含まれていた宿泊領域及び賃貸不動産領域向けサービスを事業譲渡したことにより、前年同期と比較すると売上高は減少しておりますが、不採算事業の撤退により営業利益は増加いたしました。

また、他のセグメントに属さない新技術等を用いたエンターテインメント領域の企画検討を継続して実施しております。

この結果、当第3四半期累計期間におけるその他事業の売上高は5,635千円（前年同期比94.8%減）、セグメント損失は20,430千円（前年同期はセグメント損失75,045千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は4,914,921千円となり、前事業年度末に比べ461,628千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が249,407千円、売掛金が100,612千円、投資有価証券が64,999千円、また敷金及び保証金が43,514千円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は4,153,522千円となり、前事業年度末に比べ334,735千円減少いたしました。これは主に短期借入金が45,000千円減少したこと、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）が207,852千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間における純資産は761,399千円となり、前事業年度末に比べ126,892千円減少いたしました。これは主に四半期純損失の計上により利益剰余金が131,090千円減少したことによるものであります。

なお、自己資本比率は15.5%（前事業年度末は16.5%）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年10月15日に公表した通期業績予想の数値を修正しております。詳細につきましては、本日（2022年7月15日）公表の「2022年8月期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2021年8月31日) | 当第3四半期会計期間 (2022年5月31日) |
|-------------|-----------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 774,726 | 525,318 |
| 売掛金 | 542,419 | 441,807 |
| 仕掛品 | 19 | 4,150 |
| 販売用不動産 | 3,148,397 | 3,126,304 |
| 立替金 | 228,061 | 253,973 |
| その他 | 49,547 | 48,376 |
| 貸倒引当金 | △9,830 | △13,580 |
| 流動資産合計 | 4,733,342 | 4,386,350 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 11,599 | 11,675 |
| 機械及び装置 | 1,088 | - |
| 工具、器具及び備品 | 58,788 | 58,360 |
| 減価償却累計額 | △37,356 | △39,831 |
| 有形固定資産合計 | 34,118 | 30,203 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 68,836 | 55,628 |
| ソフトウェア仮勘定 | - | 8,870 |
| 無形固定資産合計 | 68,836 | 64,499 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 257,295 | 192,296 |
| 敷金及び保証金 | 281,658 | 238,143 |
| その他 | 1,298 | 3,427 |
| 投資その他の資産合計 | 540,252 | 433,867 |
| 固定資産合計 | 643,207 | 528,571 |
| 資産合計 | 5,376,550 | 4,914,921 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2021年8月31日) | 当第3四半期会計期間 (2022年5月31日) |
|---------------|-----------------------|----------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 121,095 | 103,977 |
| 短期借入金 | 325,000 | 280,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 277,136 | 277,136 |
| 未払金 | 468,268 | 496,062 |
| 未払法人税等 | 8,354 | 7,776 |
| 株主優待引当金 | 35,783 | 5,895 |
| その他 | 89,289 | 29,639 |
| 流動負債合計 | 1,324,928 | 1,200,487 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 3,154,342 | 2,946,490 |
| その他 | 8,987 | 6,545 |
| 固定負債合計 | 3,163,329 | 2,953,035 |
| 負債合計 | 4,488,258 | 4,153,522 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 549,720 | 551,819 |
| 資本剰余金 | 548,361 | 550,460 |
| 利益剰余金 | △210,331 | △341,421 |
| 自己株式 | △572 | △572 |
| 株主資本合計 | 887,177 | 760,284 |
| 新株予約権 | 1,114 | 1,114 |
| 純資産合計 | 888,292 | 761,399 |
| 負債純資産合計 | 5,376,550 | 4,914,921 |

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

| | 前第3四半期累計期間 (自2020年9月1日 至2021年5月31日) | 当第3四半期累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日) |
|---------------|---|---|
| 売上高 | 2,247,583 | 2,051,474 |
| 売上原価 | 1,020,055 | 903,057 |
| 売上総利益 | 1,227,528 | 1,148,417 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,363,767 | 1,120,248 |
| 営業利益又は営業損失(△) | △136,238 | 28,168 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 5 | 4 |
| 補助金収入 | 25,991 | 893 |
| 保険解約返戻金 | 2,411 | - |
| その他 | 1,833 | 240 |
| 営業外収益合計 | 30,242 | 1,138 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 21,917 | 22,632 |
| 地代家賃 | 115,432 | 129,869 |
| その他 | 3,671 | 7,848 |
| 営業外費用合計 | 141,022 | 160,350 |
| 経常損失(△) | △247,018 | △131,042 |
| 特別利益 | | |
| 事業譲渡益 | - | 0 |
| 投資有価証券売却益 | - | 10,020 |
| 特別利益合計 | - | 10,020 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 18,611 | 964 |
| 固定資産除却損 | 196 | 1,269 |
| 投資有価証券評価損 | - | 4,999 |
| 特別損失合計 | 18,808 | 7,233 |
| 税引前四半期純損失(△) | △265,827 | △128,256 |
| 法人税等 | 2,833 | 2,834 |
| 四半期純損失(△) | △268,660 | △131,090 |

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の期首残高へ与える影響はありません。また、収益認識会計基準等の適用が当第3四半期累計期間の売上高、売上総利益、営業利益、経常損失及び税引前四半期純損失に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の拡大による経済への影響が継続しており、当社の事業活動にも影響を及ぼしております。広告市況の悪化に伴うマンガアプリの広告収益の縮小及び、当社が運営する「&AND HOSTEL」における稼働率や顧客単価の低下等、足元の業績に影響が生じております。2021年7月8日付で4度目の緊急事態宣言が発令され、2021年9月30日に発令は解除されたものの、依然として収束時期等を予測することは困難な状況にあり、販売用不動産の評価、固定資産に関する減損損失の計上要否の判断及び繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行うにあたっては、財務諸表作成時に入手可能な情報に基づき、2022年8月期以降は段階的に縮小するものと仮定し、会計上の見積りを行っております。

なお、現時点での収束時期を正確に見積ることは困難であることから、上記の仮定に変化が生じた場合には将来における財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注) | 合計 |
|-----------------------|-----------|----------|-----------|------------|-----------|
| | APP事業 | RET事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 2,027,277 | 111,419 | 2,138,696 | 108,886 | 2,247,583 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | — | — | — | — | — |
| 計 | 2,027,277 | 111,419 | 2,138,696 | 108,886 | 2,247,583 |
| セグメント利益又は損失(△) | 355,070 | △129,848 | 225,221 | △75,045 | 150,176 |

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に宿泊領域及び賃貸不動産領域向けサービスやインターネット広告の代理サービスに係る事業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

| 利益又は損失 | 金額 |
|------------------|----------|
| 報告セグメント計 | 225,221 |
| 「その他」の区分の損失(△) | △75,045 |
| 全社費用(注) | △286,415 |
| 四半期損益計算書の営業損失(△) | △136,238 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「その他」の区分において、当社が保有しているソフトウェアのうち、当初想定していた収益が見込めなくなったものについて、回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、18,611千円であります。

当第3四半期累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注) | 合計 |
|-----------------------|-----------|---------|-----------|------------|-----------|
| | APP事業 | RET事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| マンガ | 1,618,621 | — | 1,618,621 | — | 1,618,621 |
| 占い | 276,359 | — | 276,359 | — | 276,359 |
| &AND HOSTEL | — | 27,169 | 27,169 | — | 27,169 |
| 不動産関連 | — | 26,441 | 26,441 | — | 26,441 |
| その他 | 39,145 | 1,893 | 41,039 | 5,635 | 46,674 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 1,934,126 | 55,504 | 1,989,630 | 5,635 | 1,995,266 |
| その他の収益 | — | 56,208 | 56,208 | — | 56,208 |
| 外部顧客への売上高 | 1,934,126 | 111,712 | 2,045,838 | 5,635 | 2,051,474 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | — | — | — | — | — |
| 計 | 1,934,126 | 111,712 | 2,045,838 | 5,635 | 2,051,474 |
| セグメント利益又は損失(△) | 344,972 | △36,477 | 308,494 | △20,430 | 288,063 |

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に新技術等を用いたエンターテインメント領域に係る事業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

| 利益又は損失 | 金額 |
|----------------|----------|
| 報告セグメント計 | 308,494 |
| 「その他」の区分の損失(△) | △20,430 |
| 全社費用(注) | △259,895 |
| 四半期損益計算書の営業利益 | 28,168 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントの変更等に関する情報

第1四半期会計期間より、IoT事業の事業構造改革を実施したことに伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「APP事業」「IoT事業」から、「APP事業」「RET事業」に変更しております。

なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。